

文化
振興
展

菩提寺と

「島原藩主深溝松平家の葬儀事情」

廟守

平成23年

11月22日(火)～12月4日(日)

主催 ● 幸田町教育委員会、幸田町文化財保護委員会
問合せ先 ● 幸田町教育委員会 生涯学習課

☎ 0564-621111



文化財調査とその成果

文化財調査とは郷土に伝わる古文書・典籍・書籍・彫刻・絵画・漆工品・陶磁器・金工品・武具・石造物・建造物などの歴史的資料を国民共有の財産である「文化財」としてとらえ、現在まで守られてきた歴史的資料を今後も守っていくために、その実態・状態を把握するために実施する調査のことです。

幸田町では昭和47年に刊行された幸田町史、その後平成6年～8年に刊行された幸田町史資料編に伴う歴史的資料の調査により、町の歴史財産である文化財の把握を進めてきました。平成21年度からは、幸田町の歴史において欠かすことのできない島原藩主深溝松平家の歴史調査をおこなうために、7代当主（島原藩2代藩主）忠雄墓所の発掘調査の成果を踏まえながら、菩提寺であった瑞雲山本光寺を中心に調査を実施しています。

調査は資料1点ごとに調書を作成し資料目録の完成を目指しています。そして調査を通して深溝松平家墓所の成り立ちから現在に至る経緯を明らかにし、日本史・郷土史における深溝松平家墓所の歴史的な位置づけをおこないます。調査対象資料は深溝瑞雲山本光寺、深溝松平家の領地であった島原市の島原瑞雲山本光寺や松平文庫のみならず、そして慶應義塾大学や九州大学などにも所蔵されています。また深溝松平家とは一見無関係な地域においても、その地において存在する文化財に深溝松平家に関する情報が存在している場合もあり、それらを収集するために情報交換を密におこなうことが必要となってきています。そしてこのような情報網の整備は深溝松平家に関する新たな発見につながりました。今回観ていただく葬儀や菩提に関する展示は、これら文化財調査の成果の一端であります。

深溝松平家の葬儀

藩主が島原で逝去したときは島原本光寺において葬儀をおこない、江戸屋敷で亡くなった場合は江戸で葬儀をおこなった後、島原本光寺において本葬儀をおこないます。江戸で葬儀をおこなった場合、遺骸は葬儀後深溝に運ばれるため、島原での本葬儀は遺骸が無い状態でおこなわれますが、封地における葬儀には政治的な意味合いから必要不可欠であったと考えられます。封地の菩提寺である島原本光寺において葬儀をおこなう必要があった理由の一つに戒名の問題があります。14代当主（9代藩主）の松平忠誠は江戸において逝去し、そこで葬儀がおこなわれ仮戒名として「龍華院殿従五位下前尚舎奉御三應源會大居士」が与えられます。その後、島原本光寺において本葬儀がおこなわれ、正式な戒名として「隆克院殿従五位下前尚舎奉御道寛源弘大居士」が与えられています。封地の菩提寺である島原本光寺でおこなう葬儀の重要性を物語る事例といえます。

島原や江戸での葬儀を終えた遺骸には家臣団が付き従い、埋葬地の菩提寺である深溝本光寺に運ばれます。1ヶ月近くかけて深溝に運ばれた遺骸は葬儀を終えたのち墓穴へ埋葬されます。その後、2夜3日の法要が営まれ、葬儀に関する一連の儀式が終了となります。

逝去の連絡が届いてから遺骸の到着までのおおよそ2ヶ月の間に葬儀の準備がおこなわれますが、この準備は島原藩から先発で派遣された家臣の指揮のもと、深溝村の領主であった旗本板倉家の代官八田氏、寺領庄屋であった金子氏などの協力を得ながら先例に準じて進められました。



忠雄墓所発掘調査



深溝本光寺でおこなわれた文化財調査



本光寺境内発掘調査



重扇紋松菊流水蒔絵硯箱
17世紀終～18世紀前/個人

菊の花や松の老木、そして重扇紋には松竹梅等の吉祥模様が描かれており、所有者の吉祥長寿を機重にも祝うものとなっている。7代忠雄の時代に作られたものであり、家紋内に模様を描く意匠は墓所出土の時絵漆器と類似する。

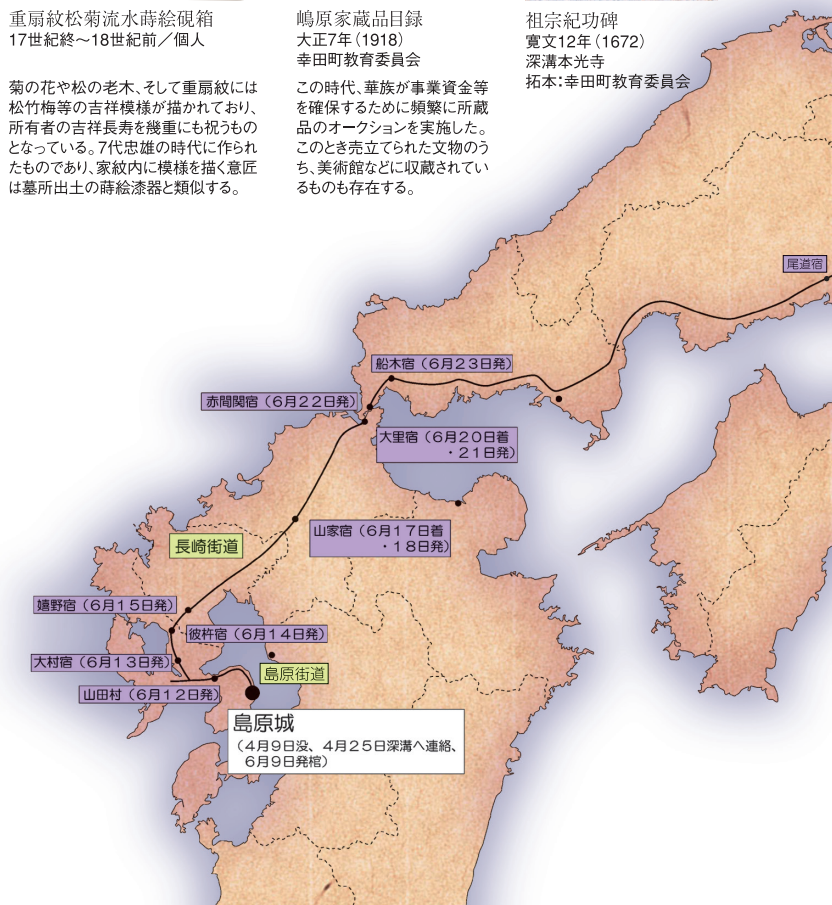


島原家蔵品目録
大正7年(1918)
幸田町教育委員会

この時代、華族が事業資金等を確保するために頻繁に所蔵品のオークションを実施した。このとき売立てられた文物のうち、美術館などに収蔵されているものも存在する。



祖宗紀功碑
寛文12年(1672)
深溝本光寺
拓本:幸田町教育委員会

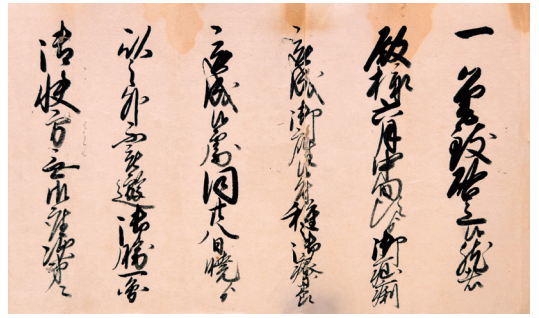




鳥原城



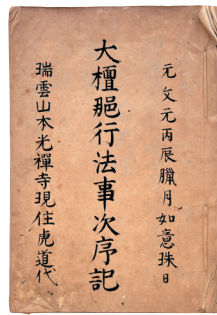
鳥原本光寺山門



佐野正柔外3名連署書状 安政6年(1859)／深溝本光寺
15代当主(10代藩主) 忠精逝去の連絡と葬儀を先々代の徳藏院(忠侯)に倣って
おこなうように住職に依頼した手紙

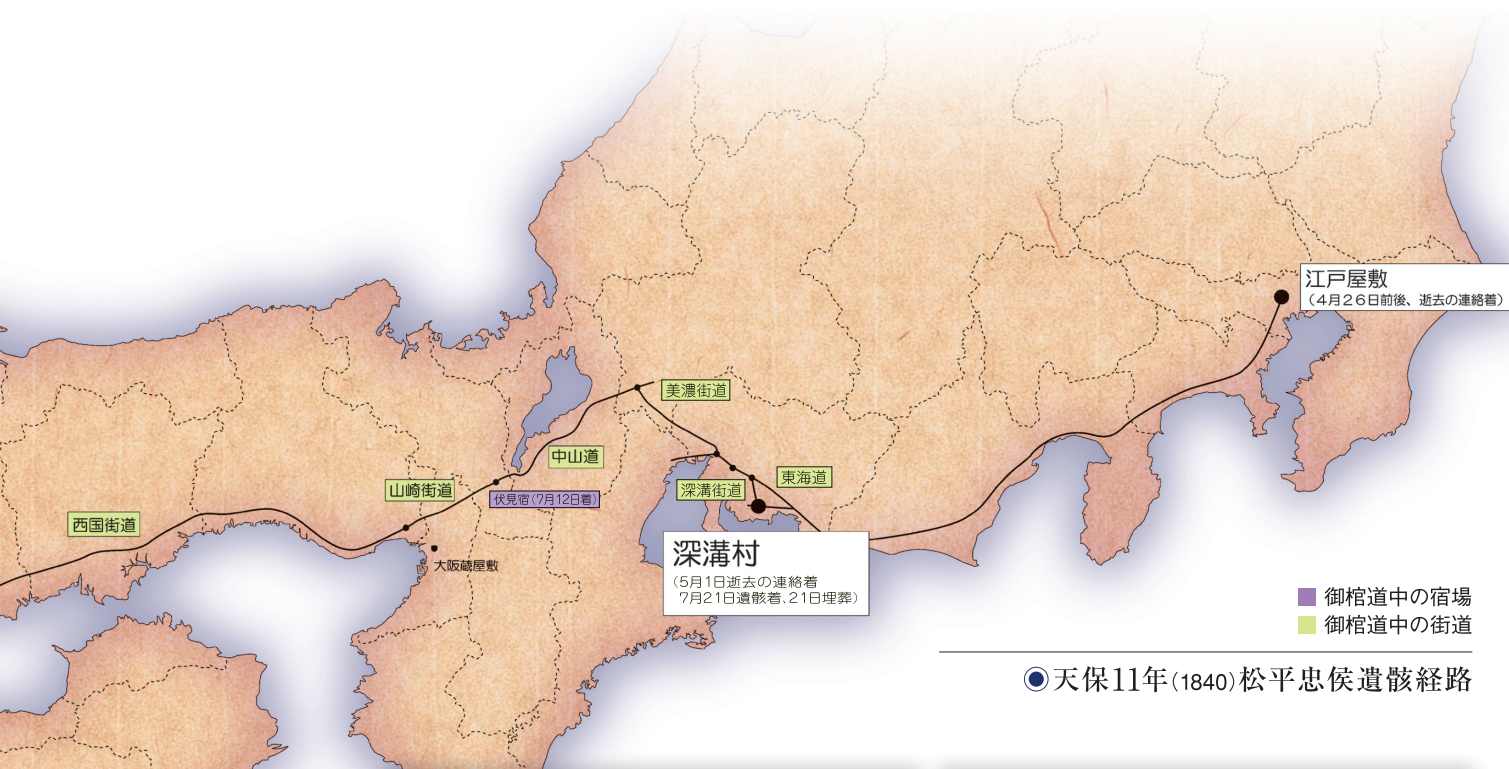


忠雄墓所墓穴の様子



重扇紋太刀鐔(左)
18世紀／深溝松平家
忠雄墓所から出土した系巻太刀の刀装具
の一点。家紋である重扇紋が配置されてお
り、特注品であることがわかる。

大檀那行法事次序記(右)
享保21年(1736)／深溝本光寺
忠雄埋葬後から三回忌までの法要手順と
ともに忠雄正室、養子忠教、忠房三十七回忌
法要の手順が記録されている



●天保11年(1840)松平忠侯遺骸経路



青山斎場へ向かう18代忠和の葬列 大正6年(1917)



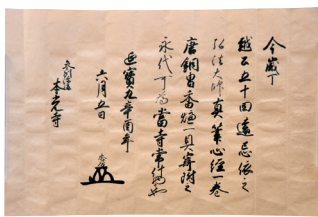
深溝本光寺における18代忠和の葬儀 大正6年(1917)

菩提を弔う

葬儀を終えたその日から、日々の墓所の管理や菩提を弔う業務が発生します。深溝松平家の墓所管理は埋葬された当主の菩提を弔う行為と廟の管理が明確に分かれていました。菩提を弔う役目を担ったのが「菩提寺」である深溝本光寺、廟の管理の役目を担当していたのが「廟守」とよばれる島原藩家臣で、記録に残る廟守は貞享4年(1687)までは今井庄兵衛が御廟所付家臣としてその役職を拝命しており、今井が亡くなった後、新たに横落藤四郎定清が島原藩から派遣されます。横落氏は禄高12石の御廟所付家臣として昭和9年までの247年間、代々の当主がその役職を拝命することとなります。大

名家の墓所の管理方法は様々ですが、深溝松平家の場合は菩提寺による管理と藩による直轄管理を組み合わせた折衷的な方法を採用していたといえます。

菩提を弔うために新藩主や家臣、交流のあった大名等は、様々な文物を弔文とともに墓前や寺へ納めます。それは藩主が生前愛用していた品であったり、わざわざ拵えたものであったり多岐にわたります。菩提寺はそれらを大事に保管し、廟守はそれらの品々を管理し、年忌法要等の菩提行為に備えたのです。



1



2



3



4



7



5



6



8

- 1 松平忠房寄附状
延宝9年(1681)6月5日/深溝本光寺
松平忠利の五十回忌に深溝本光寺に寄附した經典と冑形香炉の寄附状
- 2 朱漆樓閣人物箱絵漆絵長文箱と
伝弘法大師真筆經典
17世紀/松平忠房寄進/深溝本光寺
文箱は17世紀の品。經典は弘法大師真筆として伝わる。
- 3 冑形香炉
松平忠房寄附/深溝本光寺
松平忠房が父忠利の菩提を弔うために寄進した道具のうちのの一つ。
- 4 熊川茶碗 銘「薄柿雲ノ手」
17~18世紀/朝鮮半島/深溝本光寺
松平忠房長男好房所有の品で、好房死後、寛文9年8月23日に深溝本光寺に奉納された9品の内の一つ。
- 5 金梨子地抱杏葉紋紗懸盤
17世紀 深溝本光寺
抱杏葉は佐賀藩鍋島家の家紋。忠房正室は佐賀藩2代藩主鍋島勝茂の娘である。正室所有のもので、死後深溝本光寺へ寄進されたものと考えられる。
- 6 木地溜塗二十重硯箱
元禄14年(1701)/今泉喜重寄進
深溝本光寺
松平忠房一周忌まで塚守として深溝に留まった今泉喜重が寄進した20組の硯箱一式。
- 7 春日鹿曼陀羅
室町時代/松平忠房寄進/深溝本光寺
松平忠房が息子好房の菩提を弔うために、好房所有品であったこの軸を延宝4年に寄進。
- 8 三州深溝御廟所御道具
元禄14年(1701)/個人
今泉喜重が記録した忠房墓前に寄進された道具の帳面。この帳面は廟守が管理していた。

●本書は文化振興展「菩提寺と廟守—深溝松平家の葬儀事情—」の解説リーフレットです。
●展示した資料のうち、解説リーフレットには写真を掲載していないものがあります。
●本書の企画・執筆は神取龍生(当教育委員会主事)が担当しました。

謝辞

今回の企画展を開催するにあたり多くの方々にご協力をいただきました。ご芳名を記し、厚く御礼申し上げます。(敬称略、順不同)
三河瑞雲山本光寺、島原瑞雲山本光寺、西尾市岩瀬文庫、知立市歴史民俗資料館、慶應義塾大学文学部古文書室、九州大学記録資料館九州文化史部門、本光寺文化財調査指導委員会、島原市教育委員会、愛知県史編さん室
松平忠貞、横落幸信、小川徳男、小川薫、新行紀一、鶴田悟祐

菩提寺と廟守

—島原藩主深溝松平家の葬儀事情—

2011年11月発行

編集・発行 ● 幸田町教育委員会
印刷 ● 共和印刷株式会社